WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」
月間運用実績レポート（2026年10月）

■ パフォーマンス

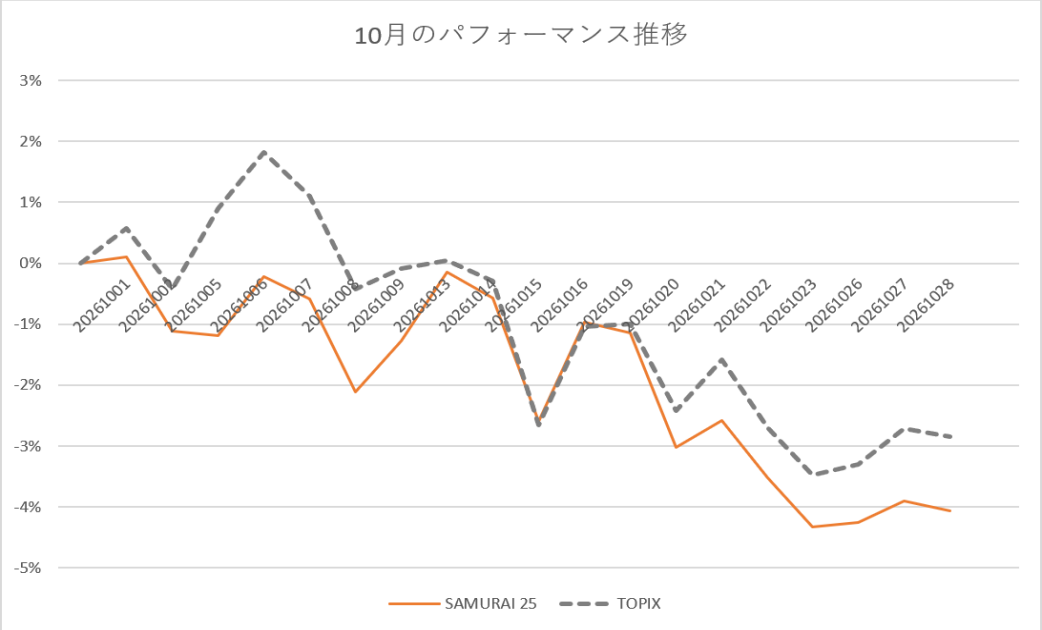
➢ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	▲6.40%

➢ 各指標の月間騰落率

TOPIX	▲3.49%	（配当込み）	▲3.48%
日経225	▲5.19%		
NYダウ	+1.70%		
S&P500	▲0.93%		
NASDAQ	▲5.30%		

➢ 10月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	-6.40%	-2.85%	1.68%	21.42%	219.97%
TOPIX	-3.48%	-0.04%	7.54%	21.71%	160.68%
超過収益	-2.91%	-2.81%	-5.87%	-0.28%	59.28%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

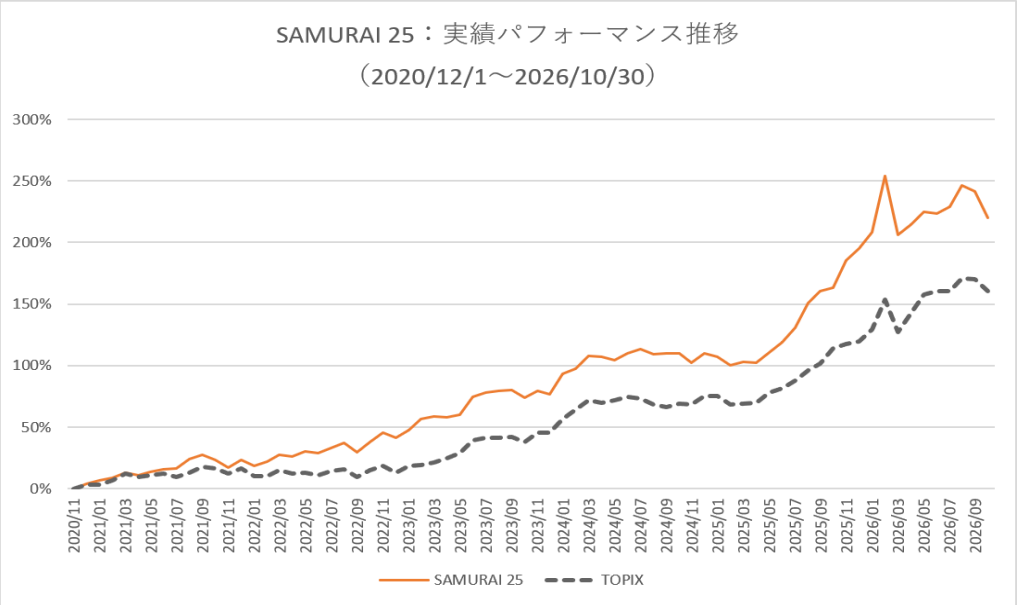
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示、また端数処理等により差分が一致しない場合があります。

SAMURAI 25の10月の運用成績は▲6.40 %（配当込み）となり、TOPIXは ▲3.48 %（配当込み）、対ベンチマーク比で▲2.91 %となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

- **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

  SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年10月末までの運用実績です。



運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	8.40%	18.77%
累積リターン(2020/12-2026/10)	219.97%	160.68%

リターン（年率換算）	21.72%	17.58%
リスク（年率換算）	14.46%	12.25%
下方リスク(年率換算)	7.82%	6.71%
シャープ・レシオ	1.50	1.43
ソルティノ・レシオ	2.78	2.62

※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。
※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

■10月の市況概況

➢ 日本市場

10月の日本市場は、米AI・半導体株の急変動に伴うグローバルなリスクオフと、日銀の金融正常化進展に揺れる展開となりました。月上旬は、AI需要と米利上げ観測後退を背景に約3ヶ月ぶりに日経平均は7万円大台を奪還したものの、その後、米AI信用不安を機に歴代3位の急落を記録しました

・第 1 週（10月1日～10月2日）／日経225 +2.33% TOPIX ： ▲0.43%

米半導体高と短観改善で日経平均急伸

米マイクロンの好決算と日銀9月短観（大企業製造業DIが+24へ6期連続改善）を好感し、1日の日経平均株価は前日比2203円高の6万8956円と大幅続進しました。2日は利益確定売りに押され647円安の6万8309円と反落したものの、アドバンテストが上場来高値を更新しました。

・第 2 週（10月5日～10月9日）／日経225：+1.06% TOPIX ：+0.34%

日経平均が一時7万円回復、TOPIX大規模刷新発表

米雇用減速を受けた米株高を追い風に、5日の日経平均は1637円高、6日には737円高の7万683円と約3ヶ月ぶりに7万円台を奪還しました。しかし、東証がTOPIX採用銘柄の4割削減を発表し、除外候補銘柄が軟調化するなど、企業選別の動きもみられました。週末の9日にかけては、米株安やファストリ、ソフトバンクGの下落も重石となり、反落しました。

・第 3 週（10月13日～10月16日）／日経225：▲5.37% TOPIX：▲0.95%

米CoreWeaveショック直撃、日経平均は歴代3位の急落

連休明け13日は米AI収益化懸念で1253円安。さらに15日、米新興AIコアウィーブの社債急落や米 CPI（消費者物価指数）の上振れが直撃し、日経平均は前日比3318円安の6万4425円と歴代3位の暴落を記録しました。主力半導体株が投げ売られたものの、16日は米信用懸念の一服やベイカレントなどAI利活用企業への物色シフトを背景に898円高と急反発しました。

・第４週（10月19日～10月23日）／日経225：▲4.03% TOPIX：▲2.46%

AIインフラ懸念と中東緊迫で続落

米マイクロソフトの英データセンター撤退報道等を受け日経平均は20日に841円安、21日は反発したものの、22日は米ラムリサーチ決算や中東緊迫による円高進行で1713円安と急落しました。 23日は一時1400円超下落し6万2000円を割り込んだものの、押し目買いが入り下げ渋りました。

・第5週（10月26日～10月30日）／日経225：+0.95% TOPIX：▲0.02%

日銀の物価2%達成で上値重く

27日は米アンソロピックIPO目論見書を好感し日経平均は1078円高、29日は通期予想を上方修正したアドバンテスト主導で705円高（6万4659円）と反発しました。一方、日銀金融政策決定会合では政策金利据え置き（1.25%）ながら基調的物価2%到達が認定され、ETF売却ペース加速を決 定。さらに、米インテルの決算発表を受け米半導体関連株が時間外で急落したことも重なり、月末にかけて戻り売りに押されました。

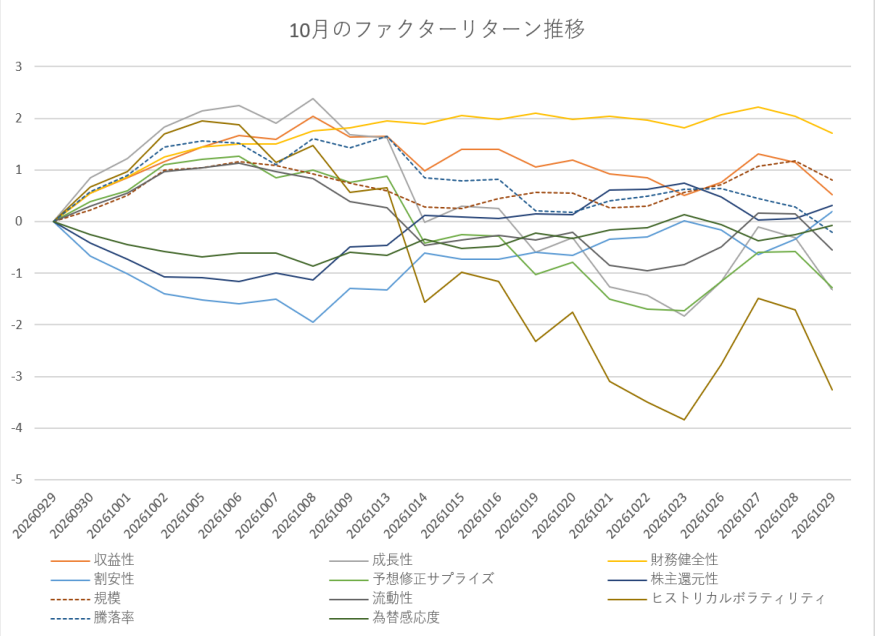
月間パフォーマンスの背景

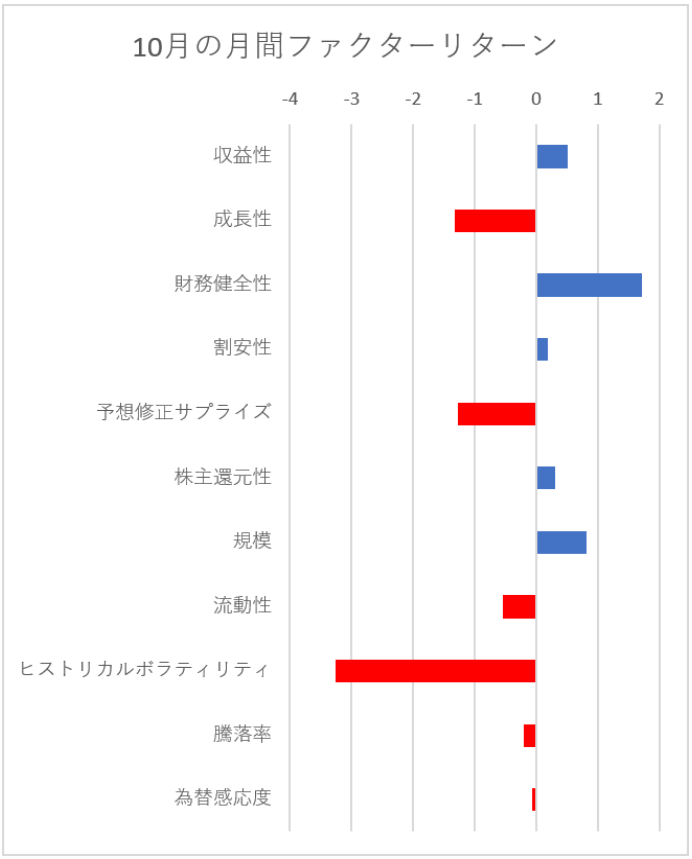
➢ ファクター動向

10月は、財務健全で収益性が高い低リスクの大型株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、財務健全性ファクター・規模ファクター・収益性ファクターがプラスとなる一方、ヒストリカルボラティリティファクター・成長性ファクター・予想修正サプライズファクターが大きくマイナスとなりました。

米AI企業に対する収益化懸念及び信用不安、中東情勢の緊迫化、さらに米中間選挙を控えリスクオフとなるなか、ディフェンシブ色の強い財務健全で収益性が高い低リスクの大型株が相対的に堅調であったことが見て取れます。





その様な市況環境のなか、SAMURAI 25は、市場平均であるTOPIXをアンダーパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアンダーパフォームした要因は、

SAMURAI 25が持つグロース要素の「成長性」特性が大きくマイナスに寄与、さらに、市場平均よりも「オーバーウエートしている予想修正サプライズファクター（＝好業績特性）」も大きくマイナスに寄与したことです。

10月は、米AI企業に対する収益化懸念及び信用不安、中東情勢の緊迫化、さらに、米中間選挙を控え明確な方向性が見えずリスクオフが強まるなか、これまでポジティブに評価されていた「成長性や好業績」といった要因に対し疑心暗鬼となり、逆にネガティブに反応しました。

その後、米中間選挙で与党共和党が惨敗したことで、米国が進む方向の不確実性がさらに高まっており、しばらく厳しい状況が続く可能性は否定できません。

しかし、ファンダメンタルズを無視した売りが行われている今こそ、割安となった優良株を仕込む好機ではないでしょうか。

ひとまとめで売られているリスク資産ですが、世界的なポジション調整が終われば、バーゲンセールとなった本質的価値のある銘柄群が真っ先に買い戻されると考えています。

SAMURAI 25は、守りの「高配当・割安」特性、攻めの「高収益・高成長」特性、そして株価の起爆剤（カタリスト）となる「業績上方修正」特性を兼ね備えた、バランスの良いポートフォリオを運用し続けており、価格変動が大きな市場環境において、これまでも実績を残してきました。

バランスの良い「本質的価値のある銘柄群を保有する」という運用哲学を変えることなく、実績ある運用戦略を一貫して行うことが重要と考えています。

➢ **個別銘柄寄与度**

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度
1	4503	アステラス製薬株式会社	3.4%	0.338%
	国内大手製薬会社。前立腺がん治療薬「イクスタンジ」を主軸に、がん、泌尿器、ウィメンズヘルス領域の新薬開発・販売を世界約70カ国でグローバルに展開しています。主力薬の特許切れ懸念がある一方、更年期障害治療薬「ベオザ」などの重点戦略製品が計画を上回る伸長を見せており、業績の底打ち・回復感が強まっています。			
2	2181	パーソルホールディングス株式会社	3.8%	0.104%
	総合人材サービス国内大手。「テンプスタッフ（人材派遣）」「doda（転職サービス）」などを展開し、業務受託やIT・エンジニア派遣、海外人材ビジネスまで幅広く手掛けています。国内の人手不足を背景にした企業の採用意欲の高さや、業務プロセスの外部委託需要を取り込み、売上収 益・営業利益ともに好調な推移を見せています。人材需要と高水準の利益成長、さらに自社株買いや安定配当などの株主還元姿勢が市場から評価されています。			
3	4114	株式会社日本触媒	7.2%	0.071%
	アクリル酸および高吸水性樹脂（SAP ：紙おむつ原料）で世界トップクラスのシェアを誇る大手化学メーカー。近年は半導体材料やリチウムイオン電池材料などの電子・エネルギー素材にも注力しています。SAPなどの販売数量は底堅いものの、海外市況の軟化や原材料（ナフサ等）価格・地政学リスクの影響を受け、業績は一進一退の展開となっています。一方、潤沢な営業キャッシュフローを背景に配当性向100%水準を意識した高配当・自社株買いを継続しており、株主還元姿勢は非常に積極的です。			
4	4202	株式会社ダイセル	4.1%	0.060%
	セルロース化学、有機合成、高機能樹脂などを展開する大手化学メーカー。タバコ用フィルター原料の「アセテート・トウ」や、自動車エアバッグ用「インフレータ（ガス発生器）」で世界的に高いシェアを誇ります。自動車生産の動向や原料コスト高の影響を受けつつも、不採算事業の整理によるポートフォリオ改革を進めています。直近の四半期決算では増収営業増益を確保するなど、収益構造の改善が進展しています。			
5	9048	名古屋鉄道株式会社	5.1%	0.037%
	中部圏を基盤とする大手私鉄グループ。愛知・岐阜に跨る鉄軌道事業を中心に、バス・タクシーなどの交通事業、不動産事業（名駅周辺の再開発）、商業・レジャー・ホテル事業を展開しています。人流回復やインバウンド需要の増加、運賃改定効果により本業の交通事業・ホテル事業は着実に回復しています。			

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

   予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

   特色１：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

   特色２：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

   特色３：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

   特色４：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

   ・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

   「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。

自然災害への備え		株式市場暴落への備え
地震は誰も予測できないが必ず起こる	→	暴落は誰も予測できないが必ず起こる
その時、いかに被害を少なくするか（リスク管理）		その時、致命的な損失を受けない（リスク管理）
いかに速く復旧できるか（現状回復力）が重要		いかに速く損失を取り戻すか（損失回復力）が重要

   ・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

   「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

   ・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

   ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

   ※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

   「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています

③ 特定業種に偏重しないようにしています

④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています

⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 11月6日時点の情報に基づき作成されております。

（提供：株式会社スマートプラス）

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

＜業務内容について＞

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

＜手数料など諸費用について＞

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

• サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。 ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Ｊトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(2)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人金融先物取引業協会